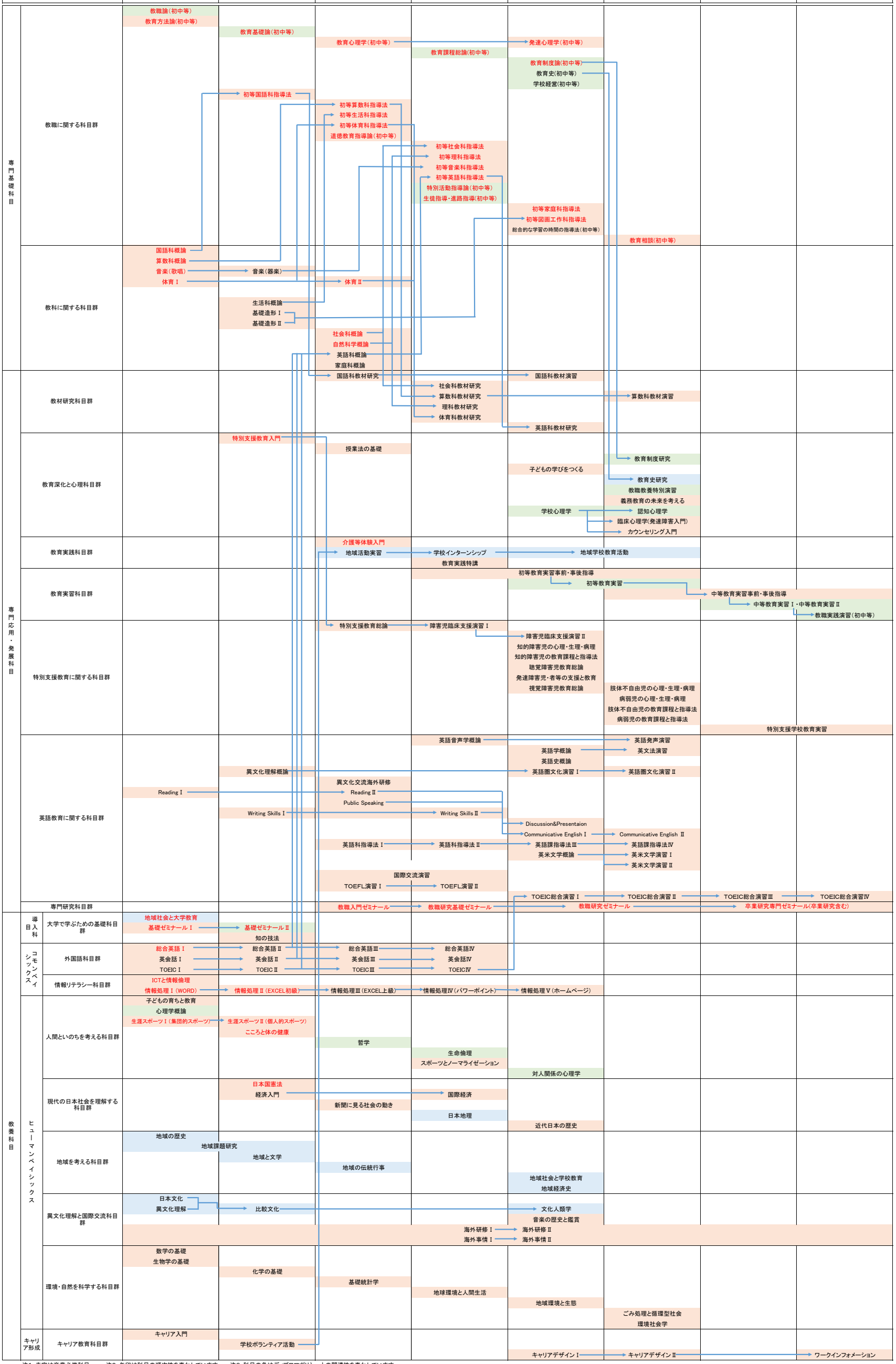
教育学部　学校教育学科　カリキュラムツリー　2020年度入学生用（2020年度版）

学校教育学科 ディプロマポリシー	1. 地域・協働	●【地元力】長野県の初等教育を誠実に担って行こうとする意欲を持った人材／学校教育の周辺分野において、学校現場をサポートできる力量を持ち、地域社会の発展と地域文化の振興に資する力量を持った人材も包摂している。
		●【地域連携力】地域の力を学校教育に導入・活用できる人材／児童の多様な能力を引き出すには、保護者を含む地域の教育力を学校に取り込み、地域と一体となって子ども達を育てる、柔軟かつ原則的な対応ができる能力を培う。
	2. 知識・指導	●【子ども理解力】子どもの発達段階に応じた育ちのあり様を理解しようとする人材／現場体験の中で子ども達の行動様式を観察・確認するだけではなく、心理学的な学びを深めることで、子ども個々人の内面からの洞察も加えられるようにする。
		●【授業力】子どもの学ぶ力を引き出す分かりやすい授業を展開できる人材／初等教育の基本となる、分かりやすくやる気を引き出せる授業を展開できる能力や児童の間違った思考過程をクラス全体の深い理解に活かせる柔軟な指導力を獲得する。
		●【自己開拓力】自分の守備範囲を拡げることに意欲的である人材／小学校の教員免許取得にとどまらず、特別支援学校や中学校の一種免許など時代の要請に応えて、自分が携わることのできる教育の範囲を絶えず拡げようとする意欲的な姿勢を養成する。
	3. チーム・運営	●【学級運営力】子どもの個性を尊重しながら学級を運営できる人材／学級の構成員である子ども達の和を保ちつつ、それぞれの能力を引き出し、学校で学ぶことが楽しいと思えるクラス運営を実施できる力を獲得する。
		●【生徒指導力】同僚の協力を得ながら生徒指導の諸課題に対応できる人材／最近の複雑な様相を呈する生徒指導・進路指導の諸課題に、人間的幅の広さを備えて、他の教師と協力しながら対応できる力を培う。
		●【学校運営力】同僚と協力して学校運営をできる人材／他の教師と協力して学校運営に携わることができるのは、学校に生起する諸課題を前向きに改善するために必要な資質であり、その力を獲得する。

	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
各学年・期の到達目標	基礎的なコミュニケーション能力（英語を含む）およびライティング能力、プレゼンテーション能力を身に付けている。専門領域においては、教職の意義と教育の理念・思想に関する理論、小学校において必要な各教科の基本的性格と科目目標・内容構成を理解している。	アカデミックスキルをより深化させ、基礎的な教養をより深く身に付けている。ICTの操作に関わる基礎理論・知識の習得、小学校において必要な各教科の基本的性格と科目目標・内容構成を理解し、各学年の授業構想や指導計画を作成する基礎能力を身に付けている。	興味のある教養モジュールのテーマについて、基礎的な知識を習得している。専門領域においては、教科の学習指導法に関わる基礎理論・知識を修得し、教科書の内容を教材として解釈し教科書及び資料集などの教材を分析することができる。	教養モジュールのテーマに沿った内容を理解し、自らの意見を持ち、論述・発表することができる。専門領域においては、教科の指導法に関わる基礎理論・知識を修得し、教育実習に向けての実践力を身に付けている。	各教科の概論および指導法の知識を発展させ、教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成することができる。学級での個々の児童生徒に合わせた応用的な対応ができる。特別支援学校教諭免許課程においては、特別支援教育の基礎的な理論・知識を身に付けている。	教育実習での経験を活かし、発展的に教材・資料を開発・作成することのできる能力を身に付けている。また、児童一人ひとりへの対応を基本に子どもに寄り添った対応を考えることにより、新しい課題に取り組める能力を身に付けている。	教育実習での経験を基に、教科や学校教育全般の諸課題に関して自己の課題を設定することができる。特別支援学校教諭免許課程においては、理論・知識を活かし、実習に対応できる応用力を身に付けている。	ディプロマポリシーに掲げた8つの力を備え、自ら設定した教科や学校教育全般の諸課題に関して、卒業研究として自らの意見を論述・発表することができる。



注1：赤字は卒業必修科目　　注2：矢印は科目の順次性を表わしています　　注3：科目の色はディプロマポリシーとの関連性を表わしています